

幼稚園教育の現状と課題、改善の方向性（検討素案）

【現状と課題】

1. 現状

- 幼稚園教育は、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とし、幼児の主体的な活動としての遊びを中心とした生活を通して、一人一人に応じた総合的な指導を行うこととしている。また、集団生活の中で豊かな体験を得させ、好奇心や創造的な思考、健康な心と体を育て、道徳性の芽生えを培うことなど、生きる力の基礎を育成する。
- 教育内容については、幼稚園修了までに幼児に育つことが期待される心情、意欲、態度などを「ねらい」として示し、その「ねらい」を達成するために幼児が経験し、教師が指導する事項を「内容」として示している。この「ねらい」と「内容」は、幼児の発達の側面から「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域にまとめ、15の「ねらい」と50の「内容」で示している。
- 指導計画作成上の留意事項において、調和のとれた組織的、発展的な指導計画を作成し、幼児の活動に沿った柔軟な指導を行うことなどを示している。

2. 課題

- 少子化、核家族化、情報化等により幼児を取り巻く様々な環境の変化、家庭・地域社会の教育力の低下が指摘されている。家庭・地域社会・幼稚園が総合的に幼児教育を提供することが必要であり、その成果を小学校に引き継ぐために、幼稚園教育の充実を図ることを明確に示す必要がある。
- 発達や学びの連続性を確保する観点から、小学校教育への円滑な移行を図るために、幼稚園教育と小学校教育の具体的な連携方策を示し、教育課程上の改善を図る必要がある。
- 幼児によっては、運動能力の低下、消極的な姿勢、言語表現能力や集団とのかかわりの中で自己発揮する力が不十分、様々な体験の不足などがあることが指摘されている。
- 幼稚園における子育て支援や保護者の要請により行う教育課程外の教育活動(預かり保育)については、単に親の育児の肩代わりになってしまうことを懸念する声もあることから、その意義などを明確に示す必要がある。

【改善の方向性】

1. 子どもの変化、社会の変化に対応した教育課程の改善

○幼稚園は、学校教育の始まりとして、生涯にわたる人間形成の基礎を培うという役割を担うために、幼稚園教育の充実を図り、発達や学びの連続性を確保して小学校に引き継ぐ必要がある。このため、幼稚園教育は、計画的な環境のもとで幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活を通して、幼児が様々な経験を積み重ねていくことが、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを、幼稚園教育要領の総則の中に明確に示してはどうか。

○幼稚園と家庭・地域社会の三者がそれぞれの教育機能を発揮し、総合的に幼児教育を提供することが必要であることから、幼稚園は家庭・地域社会との連携を一層図り、一人一人の発達を促すために環境等をつくっていくことが重要であると示してはどうか。

例えば、

日常の教育活動においては、家庭における基本的な生活習慣の形成を踏まえて一層の自立を促していくこと、戸外での遊びを積極的に行うこと、食を通じて心身の健康を増進することなどが考えられるがどうか。

2. 生活の連続性及び発達や学びの連続性を踏まえた幼稚園教育の充実

(1) ねらい及び内容の改善

○ 幼児期にふさわしい生活を通して、一人一人の幼児の発達を確かなものにするために、家庭での成長を考慮し、入園から修了までに幼児が経験し、育つことが期待される内容を示すこととしてはどうか。また、各領域の内容が総合的に指導されるものであることを一層明確にすることとしてはどうか。

例えば、

- ・ 領域「健康」については、幼児が遊びの中で意欲をもって取り組むことと、仲間と一緒に工夫しながら、体を動かす楽しさを十分に味わうことを示す。
- ・ 領域「人間関係」については、自分や友達の良さに気付くことと、協同することの大切さを示す。
- ・ 領域「表現」については、結果をとらえるだけではなく、表現の過程を大切にすること、自分なりに表現して楽しむことと仲間と一緒に表現して楽しむことを示す。 など

○ 幼児期は、身体表現に頼る伝え合いから主に言語表現による伝え合いへと変化していく時期にあたることから、話すこと、聞くことを中心に友達と伝え合うことや、みんなで話し合うことの楽しさや、聞こうとする意欲や態度を育てる指導の充実を図ることとしてはどうか、また、生活の中で使われている言葉の機能を示すこととしてはどうか。

例えば、

- ・ 言葉の獲得の仕方は一人一人異なり、個人差が大きいことから、入園当初の配慮も含めて、身体による表現も大切にしながら、言葉による表現へと指導すること。
- ・ 人間関係の広がりに応じて、感動や体験の機会を生かして話したり、相手の話に関心をもって聞いたりすること。
- ・ 領域「言葉」において、物事の仕組みなどについて考えたことを言葉に表すこと、言葉の豊かさや話し合う楽しさを知ること、言葉によって振り返ることなどの言葉の教育的機能を示すこと。 など

○日常生活の中で、一人一人の幼児が主体的に人やものにかかわり、様々な意味のある体験をすることができるように、体験の多様性と関連性に配慮することとしてはどうか。

例えば、

- ・幼児が園内外の環境にかかわる中で、いくつかの体験が結びつき、新たな体験につながるようにすること。
- ・家庭や地域社会と連携を図りながら自然体験、社会体験を豊かにすること。
- ・幼児の生活と結びついた体験となるように、もの、人、場とのかかわり方の工夫が重要であること。
- ・安全への配慮や方策について示す必要があること。 など

(2) 小学校教育との連携の推進

○発達や学びの連続性を確保する観点から、幼稚園では、集団生活の中で自発性や主体性等を育てるとともに、環境との出会いや人間関係の深まりに沿って、幼児同士が共通の目的を生み出し、協力し、工夫して実現していくという協同する経験を重ねることが重要であることとしてはどうか。

○幼稚園教育において小学校以降の生活や学習の基盤を培い、それが長期的に生かされていくように円滑な接続に配慮することとしてはどうか。そのために、教育課程上の改善について双方が明示してはどうか。

例えば、

- ・幼稚園における興味や関心に沿った活動の中で学んでいることや育っていることが、成長の過程の中で後々、小学校における生活や、生活科をはじめとする教科等の学習へと発展していくような見通しに配慮してはどうか。
- ・小学校教育と連携して、幼児と児童の交流や教師の研修等による相互理解などを図ることが考えられるがどうか。

3. 幼稚園における子育て支援及び預かり保育の望ましい在り方

○幼稚園における子育て支援及び地域の実態や保護者の要請により教育課程にかかわる教育時間終了後に希望する者を対象に行う教育活動（預かり保育）の取り組みを、幼児が幼児期にふさわしい生活を送るために家庭の教育力の再生・向上、「親と子が共に育つ」という視点から整理し、内容の充実を図る必要があることとしてはどうか。

例えば、

- ・子育て支援については、親のかかわりを深めるように「親と子が共に育つ」という視点をもって、地域の実情に応じて行うことを加えてはどうか。その際、幼稚園は、家庭、地域社会とネットワークを形成して、それぞれの教育力を積極的に活用していく姿勢を求めることとしてはどうか。
- ・教育課程にかかわる教育時間終了後に希望する者を対象に行う教育活動（預かり保育）については、適切な指導体制を整えるとともに、幼児が幼児期にふさわしい生活を送るために、家庭や地域社会で行う生活体験を支援する役割を加えてはどうか。

* これらを実施する際には、子育てについては保護者が第一義的責任を有すること、家庭における基本的な生活習慣の確立、自然体験や生活体験の推進が重要であることを示すこととしてはどうか。